



## 2020.02.25 「神石高原町」訪問

広島県東部にある高原リゾート地「神石高原」。2004年、旧神石郡4町村合併で神石高原町と命名。この時点で標高500～700mの高原リゾートまち戦略ができていたといえる。

さわやかな神石(じんせき)高原に西日本最大級のドッグランがある。野犬、傷病犬を保護、訓練するピースワンコジャパンが運営する。専門のトレーナーが犬の適性をみきわめ、「人を助けてくれる犬」を育て、里親や様々な現場に



派遣している。糖尿病治療中の人の急激な血糖値低下を周囲に警告をする「低血糖アラート犬」や、農地をイノシシ、猿の獣害から守る「里守り犬」の育成にも取り組んでいる。



入江町長(中央)と森重副町長(左)と懇談

彼方に瀬戸内海を望む高台にある神石高原ホテル。昨年、地域おこし人サミットに参加された南相馬市の旧相馬藩34代当主相馬行胤氏は現在この高原で牧場を経営中。



人口8,800人。動物と星空、清麗な水と空気、人の輪が広がり、地産品に溢れる。子育て環境に恵まれ、働き場所も少なくない高原のまち。ユートピアの1つの形だろう。

神石高原町庁舎に入江嘉則町長を訪問(左)。昨年の地域おこし人サミットで発表いただいた「人と自然が輝く高原のまち」づくりは、動物を大切にするユニークな取り組みへ続く。地域サポート人ネットワーク全国協議会の旗振りなど、町長の思いがこもった構想には、さらなる展開に期待がかかる。



ピースワンコジャパンのマネージャー氏、同行のイノウエ氏を交え、まちづくり役を受けもつ上山神石高原町参事と協議。(Peace Wonko Japan <https://peace-wanko.jp/>)